

特集にあたって

予期せぬ入院，望まぬ入院を防ごう

企画・構成 **大橋博樹** Ohashi Hiroki
(医療法人社団家族の森 多摩ファミリークリニック院長)

「時々入院ほぼ在宅」というキャッチフレーズは聞くものの、依然として入退院を繰り返す患者は存在する。急性期病院の負担は大きく、在宅医療を担うスタッフも忸怩たる思いをして入院を依頼するケースも少なくない。本特集では、入退院を繰り返す要因として考えられるポイントをさまざまな角度から検証し、改善し得る方略について提言した。

まずは、入院予測の指標や入院回避のために在宅側で取り組むべき課題について解説した。そして、入退院を繰り返す原因として無視できない再入院の問題について、多職種で検討すべきことについても取り上げた。また、患者や家族の立場に関しても、ACP (advance care planning) の視点も交えて検討した。よくある入退院を繰り返す疾患や病態については、在宅医療での注意すべき実践的なポイントをあげて解説した。

また一方で、入院を受け入れる病院スタッフ側の視点も重要である。具体的事例をあげながら、地域で取り組むために必要な病診連携について提言した。地域包括ケア病床は、在宅医療との連携を軸として創設されたものの、十分に生かされていないと断言は難しい。本来のあり方やそのための課題についても解説した。

本特集では、在宅医療のビギナーからでも学べるように、具体例やポイントをわかりやすく明示することを意識した。少しでも、在宅医療現場での予期せぬ入院への減少の役に立てれば幸いである。

★本特集における用語定義：「安易な入院」「必要な入院」とは、以下を指す。

「安易な入院」

- まだ在宅で可能な入院回避できる手段があるにもかかわらず、十分検討されないなかでの入院
- 病態や介護の状況など状態悪化のアセスメントがなされていないなかでの入院
- ケア側が十分対応できないための入院

「必要な入院」

- 本人・家族が以前から療養先として希望した入院
- レスパイトなど療養環境を整えるための入院
- 在宅ではケア困難であり、入院によってその後の在宅療養の質が明らかに上がることで予測される入院